

## 県立結城第二高等学校自己評価表（全日制）

No. 1

目指す学校像		「人とつながるオンリー・ワン、みんなが資源、みんなで支援」を基調とし、 1 確かな学力を身につけさせ、社会で自立できる生徒の育成を目指す。 2 規範意識の向上を図り、自他の人権や生命を尊重できる心豊かな生徒の育成を目指す。 3 生徒との信頼関係を基盤に、教師自らが資質の向上を図れる学校を目指す。 4 地域の人々や保護者と連携し、地域に開かれた学校を目指す。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目	標	達成状況	
生徒との信頼関係を基盤にした地道な指導の積み重ねにより、生徒に対する指導の効果がより一層高まり、地域からの信頼も得られるようになった。 生徒・保護者・教職員間の信頼関係のさらなる向上、生徒の規範意識の向上・基本的生活習慣の確立・学習意欲の喚起等、継続的な取り組みが必要である。		学習習慣の確立・主体的学習態度の育成	① 授業時間の確保に努める。 ② 個に応じた指導を実践する。 ③ 生徒の学習意欲・関心を喚起する授業を実践し、主体的・意欲的に学習に取り組めるようにする。 ④ 課題・授業態度等を含めた多面的な評価や指導方法を工夫する。		B	
		基本的生活習慣の確立と命を大切に作る心の育成	⑤ 生徒が自らを律し、きちんとした日常生活を送るための指導を徹底する。 ⑥ 自他の命を大切に作る心を育成するための活動を充実させる。		B	
		進路意識向上のための活動推進と3年生の進路実現	⑦ 職業観・労働観を養う活動を充実させ、進路意識の向上を図る。 ⑧ 進路情報の整理や情報提供に努め、進路実現を推進する。		C	
		創意工夫に満ちた学校行事等の実践と部活動の充実	⑨ 生徒の主体性や積極性を引き出す学校行事等を行う。特に、文化祭や球技会などでは、生徒が達成感を得られるように援助する。 ⑩ 部活動に生徒が積極的に参加できるよう、支援する。		B	
評価項目	具体的目標	具体的な方策			評価	次年度(学期)への主な課題
教 科	国語	生徒の習熟度に応じた授業の実践	生徒の習熟度に応じて、指導内容や設問事項を考慮し、生徒が学習への達成感を得られるようにする。	②	A	/
		指導方法の工夫と学習意欲の喚起	「読む」「聞く」「書く」といったことに重点を置いた指導や調べ学習等を通して、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。	③	B	
		基礎学力の向上	副教材を利用し、基礎的な国語力の向上を図る。	③	B	
	・地歴	基礎学力の定着	政治・経済の基礎的な知識、近現代史の概要などを、副教材や視聴覚教材を使用しながら、意欲・関心を高める授業をすすめる。	②③	C	
			新聞などを利用して、社会に適應できる一般常識を身に付けさせる。	③	B	
	数学	基礎学力の向上	授業の始めに前時の復習を行う。	③	B	
		個に応じた指導	問題演習の時間を十分にとる。	③	B	
		関心・意欲の向上	机間巡視をこまめに行い、生徒のつまずきに個別に対応する。	②	B	
	理科	関心・意欲の向上	授業の始めに前時の復習を行う。	③	B	
			観察や実験を行い、自然に対する関心や探求心を高める。	③	B	
			実験が苦手な生徒には、別の課題を用意する。	②	C	
			提出物や授業態度等の評価の比率を大きくする。	④	A	
保健体育	基礎体力の向上と集団行動の習得	グループ分けや活動の場を工夫し、生徒の活動量を十分に確保する。	③④	B		
		毎時間の授業で定期的に体力を高める運動を行う。	④	B		
		学習意欲や関心を高める授業	パワーポイントや視聴覚教材を活用し、関心・意欲を高める。	③	B	

教 科	(美術)	授業態度の確立	効率的に授業が進められるよう、教具などの分別配置や収納の工夫を図る。	①④		B
		基礎技術の習得と向上	生徒が主体的に授業に取り組めるような教材を選択する。	②③		
		鑑賞能力の向上	鑑賞の機会を増やし、芸術を身近に感じることができるようにする。	②③		
	英語	個に応じた指導	アンケートの結果をもとに指導法の改善を図る。	②③	A	
		学習意欲の向上	個々の能力に応じた指導を行い、学習意欲の高揚を図る。	②③	B	
		基礎学力の向上	授業用ワークシートを作成して、授業内容の定着を図る。	③	B	
	家庭	多面的な評価の工夫	課題や授業への取り組みを積極的に評価する。	④	A	
			基礎知識・技術の向上	教科内容・教材の精選・工夫をし、少人数による個に応じた指導を行う。	①②	
		創造的・実践的態度の養成	個々の生徒の進捗・達成度を把握し指導を行う。製作実習に関しては、完成までのプロセスを重要視し、指導を行う。	②③	A	
			各種研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努めるとともに、生徒の指導に生かす。技術検定を実施し、資格取得への意欲を高める。	③④	B	
情報	情報機器の基本的な知識・技術の習得	家庭クラブ活動等、課題解決学習を積極的に取り入れ、生徒が生活の中で生かせる能力を養う。	④⑨	C		
		情報社会において必要な情報機器の基礎知識を身につける。	③④			
教務	授業時間の確保	ワープロソフト、表計算ソフトの基本的な使い方を習得する。	③④			
		教科による授業填補を推進する。	①	A		
生徒指導	個に応じた指導の支援	特別支援教育等、個に応じた指導に関する職員研修会を実施する。	②	B		
		主体的学習態度の育成	生徒の学習状況・意識調査を実施する。	③	A	
	生徒理解に基づいた指導の充実	家庭訪問や面談を積極的にを行い、生徒一人一人の理解に努める。	⑤⑥	B		
		生徒理解に基づき、発達段階等に応じた指導を工夫する。	⑤⑥	B		
	自律的な生活習慣の確立	日々の立哨指導等を充実させ、生徒が自律的な生活を送れるよう指導の徹底を図る。	⑤	B		
		身だしなみ講座やマナーアップ講座等を積極的に導入し、規範意識や公共心の確立を図る。	⑤	A		
		豊かな心育成の推進	豊かな心育成講演会等を積極的に導入し、思いやりの心や生命を尊重する心の育成を図る。	⑥	C	
	地域と連携した指導の充実	ボランティア活動や自然体験活動など道徳的实践を積極的に導入し、豊かな人間性を培う。	⑥	A		
関係諸機関や地域内学校間との連携・協力体制を充実させる。		⑤⑥	A			
進路指導	進路意識の確立	関係諸機関・組織と連携して、生徒の労働観・職業観を養うために、進路講話・進路ガイダンス・インターンシップなどを実施する。	⑦	B		
	就職指導の充実	生徒の適性や要望などを十分に把握し、面接指導などの充実を図る。	⑧	C		
	進学指導の充実	生徒・保護者との連絡を密にし、志望校の決定や受験指導を行う。	⑧	B		
	資料・情報の収集整理	必要な資料・情報の収集と整理に努め提供する。	⑧	B		
特別活動	ホームルーム活動及び学校行事の充実	球技会を、生徒数などのバランスを考慮し実施する。	⑨	A		
		文化祭では、生徒が積極的に参加できるように早めに計画を立て、担任との連携を密にする。	⑨	D		
	部活動の充実	状況に即した予算配分及び部室の再編をする。	⑩	B		
		生徒の主体的・自発的な活動を支援する。	⑩	C		

図 書	図書活動の確立と読書習慣の推進	図書室内の美化や図書の配置・整備をし、図書室利用の活性化を図る。	③	A	B	/
		図書室利用のマナーを身につけさせる。	②⑤	A		
		生徒・教師のニーズに合わせた新刊図書・資料の充実を図る。	②③	A		
		図書室だよりを発刊するなどし、図書委員会活動を活性化する。	⑨	B		
	視聴覚教材の活用	視聴覚教材の充実を図り、日常の教育活動に役立てる。	③	C		
		放送設備を充実させ、放送委員会の活性化を図るとともに、効果的に利用できるようにする。	③	C		
保健厚生	生徒が学習するための環境整備	日常的に校舎内外の環境美化に努める。	⑤	C	B	/
		生徒による大掃除を行い、学習環境を整備し、環境美化意識を高める。	⑤	B		
	心身の健康促進	自主的に健康を保持増進する力を養わせる。	⑤⑥	B		
		健康講話を通して、正しい知識を身につけさせる。	⑤⑥	B		
		生徒の健康状態について、教職員間で共通理解できるよう努める。	⑤⑥	A		
渉 外	保護者と職員の連携と協力	保護者の理解・協力を得て、保護者と職員が連携し、積極的にPTA活動が実施できるようにする。	⑤	B	B	/
	PTA活動の活性化	各専門委員会、支部会、理事会活動が活発に実施できるように、内容を検討し、精選する。	⑤⑥	A		
	県・県西地区高P連との連携	県西地区高P連及び県高P連と連携し、校内PTA活動の充実を図る。	⑦⑨	B		
事 務	学校の窓口としての親切な対応	電話の対応、窓口対応等誠意を持って、相手の立場を考え、きめ細かい対応をする。		B	B	/
	予算の適正な執行	年度毎に、予算配分希望調査書や予算委員会を開き、職員の理解を得た予算措置に努める。		B		
		最小の経費で最大の効果をあげるよう工夫する。		B		
	授業料免除制度の活用	授業料免除制度を必要とする家庭を把握し、早期対応に努める。		A		
第3学年	基本的生活習慣の確立	生徒指導部と連携し、登校時指導を実施し、生徒が節度ある学校生活を送れるようにする。	⑤	A	B	/
	希望進路の実現	進路指導部と連携し、進路講話、面接指導、進路ガイダンス等を行い、生徒の進路実現を支援する。	⑦⑧	B		
		進路指導部と連携し、外部講師などを招聘し、社会人としての心構えを学ばせる。	⑦⑧	B		

※ 評価基準 A：達成できた、B：ほぼ達成できた、C：あまり達成されていない、D：達成されていない

## 県立結城第二高等学校自己評価表（定時制）

No. 1

目指す学校像	<p>これまでの学校生活で、個性・能力を適切に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンリーワン、みんなが資源、みんなで支援」を基調とし、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 個に応じた指導を通し、向上心を高め、自己実現を目指す学校</li> <li>2 自己肯定感を培い、自他を理解・受容し、社会性をはぐくめる学校</li> <li>3 地域社会と連携し、いつでもだれでも学べる、地域に開かれた学校</li> <li>4 生徒との信頼関係を基盤に、教師自らが資質・能力の向上を図れる学校</li> </ol>		
昨年度の成果と課題	重点項目	達成状況	
<p>フレックススクール移行に向けて準備していたシステムを運用し、運用上実際に起こる様々な問題点を改善してきた。</p> <p>また、中学生や保護者、地域住民の理解も一層得られ、平成21年度入学者選抜においては、昨年度以上の志願者を集めることができた。</p> <p>教育課程、履修相談、行事の運営、カウンセリング体制のさらなる充実、進路希望の実現など生徒と周囲の期待に応えるための工夫・改善を進めることが課題である。</p>	<p>基礎学力の向上、主体的・意欲的学習態度の育成</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業形態を工夫する。</li> <li>② 個に応じた指導を実践する。</li> <li>③ 生徒が主体的・意欲的に学習に取り組めるような指導を実践する。</li> <li>④ 生徒に自己学力の伸長を確認させることにより、学習意欲を向上させる指導を実践する。</li> </ol>	B
	<p>規範意識の醸成、自律的生活習慣の確立及び、社会貢献のできる豊かな人間性の育成</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑤ 自己肯定感を高め、自律的生活習慣を確立するなど、健やかな成長の基礎形成を徹底する。</li> <li>⑥ 規範意識を培うための取り組みを徹底する。</li> <li>⑦ 安全教育を推進する。</li> <li>⑧ 社会奉仕体験活動を充実させ、地域と連携した多様な活動を推進する。</li> <li>⑨ 豊かな心育成のための取り組みを推進する。</li> </ol>	A
	<p>進路意識の向上及び進路実現に必要な能力の育成</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑩ キャリア教育を積極的に推進し、社会性や職業観を養う。</li> <li>⑪ 多様な生徒に対応した進路指導を行う。</li> <li>⑫ 進路ガイダンスの充実や適切な進路情報を提供することで、進路意識を向上させる。</li> </ol>	B
	<p>結城二高生としての一体感を感じることでできる特別活動の実践</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑬ 多くの生徒が参加できる学校行事を企画・運営する。</li> <li>⑭ 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性や積極性を引き出す。</li> </ol>	B
	<p>組織的な相談体制づくりと個に応じた対応</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑮ 研修会等を通して個々の教職員のスキルアップを図る。</li> <li>⑯ キャンパスエイド、スクールカウンセラー及び関係職員が連携協力し、組織的な支援体制の充実を図る。</li> <li>⑰ 心身の健康の状態を的確に把握し、関係諸機関とも連携して、個に応じた適切な対応をとる。</li> </ol>	A
	<p>開かれた学校づくりと地域との連携の推進</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑱ 中学校や地域住民に対し、理解をより深めてもらうための情報を発信する。</li> <li>⑲ 地域からの信頼・支援、教育力を得るための取り組みを推進する。</li> </ol>	B

評価項目		具体的目標	具体的方 策	評 価		次年度(学期)への主な課題
教 科	国 語	生徒の習熟度に応じた授業の実践	生徒の習熟度に応じて、指導内容や設問事項を考慮し、生徒が学習への達成感を得られるようにする。 ②③	A	A	進路希望に応じて、生徒が、主体的に学習に取り組む指導が必要である。
		指導方法の工夫と学習意欲の喚起	「読む」「聞く」「書く」といったことに重点を置いた指導や調べ学習等を通して、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。 ③④	B		
		基礎学力の向上	副教材を利用し、基礎的な国語力の向上を図る。 ①③	A		
教 科	・地 公 民 歴	基礎学力の定着	副教材や視聴覚教材を使用しながら、意欲・関心を高める授業を進め、基礎的な知識の定着を図る。 ①④	B	B	学力差のある生徒への指導方法の工夫が必要である。
			新聞などを利用して、社会に適應できる一般常識を身に付けさせる。 ③	B		
	数 学	個に応じた指導	習熟度別授業において、個々の能力に応じた指導を実施する。机間巡視をこまめに行い、生徒のつまづきに個別に対応する。 ②③	A	B	習熟度別クラスを固定化し、授業内容を精選することが課題である。
		基礎学力の定着	問題演習の時間を十分にとり、学習内容の定着を図る。 ④	B		
	理 科	関心・意欲の向上	観察・実験を重視する等、自然体験の機会を積極的に設ける。その際、班編制は活動しやすいものとする。 ②③	B	B	学習意欲をさらに高めるとともに、学習内容の定着を図るため、指導方法および評価方法を改善する。
			教材を工夫し、主体性の向上を図る。 ③	B		
		基礎学力の向上	基礎的な学習内容についてテストを行い、理解度を調べるとともに、基礎的な学力の伸長を図る。 ③④	B		
保 健 体 育	体 育	基礎体力の向上	毎時間の授業で定期的に体力を高める運動を行なう。 ②③	C	B	基礎体力の向上及び見学者への指導方法が課題である。
		集団行動及び規律ある学校生活の確立	集合・整列・号令などの集団行動を通して、規律ある学校生活及び基本的生活習慣の確立を図る。 ⑤	A		
	保 健	学習意欲や関心を高める授業	パワーポイントや視聴覚教材を活用し、関心・意欲を高める。 ④	B		
教 術	芸 術	授業態度の確立	決められた服装で、道具なども自分で管理し、時間内に片付けを終えるよう指導を徹底する。 ⑥⑤	B	B	技術力、理解力の不足している生徒への指導方法を考える。
		基礎技術の習得と向上	生徒の技術力を向上させるためのサポートを常に心がける。 ③	B		
		鑑賞能力の向上	日本の伝統工芸品に触れる機会を増やし、身近に感じることができるようにする。 ④	B		
英 語	個に応じた指導	年2回のアンケートの結果をもとに指導法を工夫する。 ①②	B	B	習熟度別授業を展開しながらも、学力の差に対応できなかった。次年度は教科で話し合い、授業内容・展開について工夫する必要がある。	
		習熟度別・少人数授業を実施し、主体的な学習態度を育てる。 ③	B			
	学習意欲の向上	個々の能力に応じた指導を行い、学習意欲の高揚を図る。 ③④	B			
	基礎学力の向上	ワークシートやドリルなどを使用し、授業内容の定着を図る。 ②④	A			
科 家 庭	基礎知識・技術の向上	教科内容・教材の精選・工夫をし、少人数による個に応じた指導を行う。 ①④	A	B	特別な配慮を必要としている生徒に対しての支援・指導法が課題である。	
		個々の生徒の進度・達成度を把握し指導を行う。製作実習に関しては、完成までのプロセスを重要視し、指導を行う。 ①②	A			
	創造的・実践的態度の養成	各種研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努めるとともに、生徒の指導に生かす。技術検定を実施し、資格取得への意欲を高める。 ③④	B			
		家庭クラブ活動等、課題解決学習を積極的に取り入れ、生徒が生活の中で生かせる能力を養う。 ③④	C			
情 報	基礎的な情報機器操作の習得	情報社会において必要な情報機器の基礎知識を身につける。 ②③	A	B	効率的な学習法を検討する必要がある。	
		毎時、キー入力等の基礎的な操作の練習をし、技術の向上を図る。 ②③	B			

教 務	授業時間の確保	始業式、終業式等における授業の確保に努める。	①	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援が必要な生徒に対する個別指導支援計画を策定する必要がある。</li> <li>・3部制における学校行事の在り方を検討する必要がある。</li> <li>・学校ホームページなど広報事業を推進する必要がある。</li> </ul>
		授業の填補は同一教科内で行うことを原則とする。	①	B		
	個に応じた指導の支援	習熟度に合わせた個別指導を支援する。	②④	A		
		フレックススクールの環境整備	観点別評価をふまえたシラバスを、定時制移行に合わせ作成する。	③		
	広報活動の改善・推進	聴講生の募集・公開授業等により、地域に情報を発信すると共に教育力を高める取り組みを推進する。	⑱	B		
生徒指導	生徒理解に基づく指導	面談や家庭訪問を積極的に行うだけでなく、学校生活のあらゆる場面を利用して生徒理解に努める。	⑤⑱	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活のあらゆる場面での日々の取り組みをとおして、生徒が自律的生活習慣の確立を図れるよう生徒指導体制の改善・充実に努める必要がある。</li> <li>・生徒の発達段階に応じた指導方法の工夫を図っていく必要がある。</li> <li>・生徒の「豊かな心」育成にさらに努めながら、奉仕活動や自然体験活動、地域の施設・学校との交流の様子を積極的に外部に発信することが必要である。</li> <li>・地域ぐるみで結城二高の生徒を育てていくという環境をつくり出すことが課題である。</li> </ul>
		個に応じた生徒指導を工夫する。	⑤⑱	B		
	自律的生活習慣の確立	毎日の登校・下校指導を通して、挨拶励行・身だしなみ・遅刻防止等の指導を徹底する。	⑤⑥	B		
		身だしなみ講座やマナーアップ講座等、外部講師を活用した指導を積極的に実施する。	⑤⑥	A		
	安全教育の推進及び環境整備	交通講話や防犯講話、携帯電話安全教室等、外部機関と連携した指導を積極的に実施する。	⑥⑦	A		
		防犯パトロールや立哨指導、交番システム等、生徒の安全・安心を守る取り組みを推進する。	⑥⑦	A		
	豊かな人間性の育成	「ボランティア・トレッキング」・「結城市環境美化パートナーシップ事業」等の奉仕体験活動や、地域の施設・学校との交流を積極的に積み重ねる。	⑧⑨	A		
		外部講師を活用した「豊かな心育成講演会」を実施する。	⑧⑨	C		
	地域との連携	関係機関や地域内学校を積極的に訪問し、連携・協力体制を継続・発展させる。	⑱⑲	A		
		自治会や生徒利用頻度の多い施設・商店等に「結城二高サポーター」として、生徒指導の協力を得る。	⑱⑲	B		
進路指導	職業観・労働観の育成	関係諸機関と連携し、インターンシップを実施する。	⑩	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試・課外・インターンシップ等に多くの生徒が参加できるための工夫が必要である。</li> <li>・コミュニケーション能力・基礎学力の向上に努める必要がある。</li> </ul>
	進路意識の確立	進路講話・進路ガイダンスを実施して、進路意識を向上させ進路決定を支援する。	⑪	A		
	学力の向上	課外（通常・夏期）や模試を実施し、進路実現に必要な学力を養成する。	⑪	B		
	進路志望の把握	進路希望調査などを実施して、生徒の進路志望の把握に努め、適切な指導を行う。	⑪	B		
	資料・情報の収集整理	生徒や職員が必要とする資料や情報を作成・収集し、提供する。	⑫	B		
特別活動	ホームルーム活動及び学校行事の充実	多くの生徒が参加できるように学校行事を工夫する。	⑬	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事精選及び行事によつての運営方法や生徒参加の在り方が課題である。</li> <li>・更なる部活動の活性化が課題である。</li> </ul>
		球技会などの学校行事に、定時制の生徒も全日制の生徒と一緒に参加できるように、早めに計画を立て、担任との連携を密にする。	⑬	B		
	部活動の充実	多くの生徒が部活動に参加できるように、各部顧問・体育科等と連携を密にし、活動場所、活動時間などを確保する。	⑭	B		
		多くの部活動が定通大会に参加できるように支援する。	⑭	A		

図 書	図書活動の確立と読書習慣の推進	図書室内の美化や図書の配置・整備をし、図書室利用の活性化を図る。	④	A	B	待機場所・相談室的役割となっている事への対応と視聴覚教材の充実及び改善が必要である。
		図書室利用のマナーを身につけさせる。	②⑧	A		
		生徒・教師のニーズに合わせた新刊図書・資料の充実を図る。	④	A		
		図書室だよりを発行するなどし、図書委員会活動を活性化する。	⑭	B		
	視聴覚教材の活用	視聴覚教材の充実を図り、日常の教育活動に役立てる。	④	C		
		放送設備を充実させ、放送委員会の活性化を図るとともに、効果的に利用できるようにする。	③⑭	C		
保健厚生	生徒が学習するための環境整備	教室や多目的ホールなど生活範囲の環境美化に努める。	⑤	B	A	生徒に関する情報の過不足のない共有、対応に関するさらなる共通理解の必要がある。生徒の、自らの健康を保持増進する態度を育成する必要がある。校内施設設備の安全性を高める必要がある。
		生徒による大掃除を行い、学習環境を整備し、環境美化意識を高める。	⑤⑦	A		
	心身の健康促進	自主的に健康を保持増進する意識を持たせる。	⑤	B		
		健康講話を通じて、正しい知識を身につけさせ、健康で安全な生活を送れる力を養う。	⑤⑦	A		
		教職員間や関連諸機関との間で連携をとり、生徒の心身の健康状態について共通理解を持ち、適切に対応できるよう努める。	⑯⑰	A		
渉 外	保護者と職員の協力と連携	保護者の理解・協力を得て、保護者と職員が連携し、PTA活動が円滑に実施できるようにする。	⑱⑲	B	B	PTA活動のスムーズな運営と活性化が課題である。
	PTA活動の活発化	各専門委員会、支部会、理事会活動等が活発に実施出来るように、内容を検討し、精選する。	⑱⑲	A		
	定時制高校におけるPTA活動の充実・推進	定時制高等学校PTA活動に積極的に参加し、活動の充実・推進を図るとともに、校内PTA活動についても検討、改善する。	⑱⑲	B		
事 務	学校の窓口としての的確な接遇	電話・窓口等の対応において、誠意を持って対応するとともに、不審者対策にも心がける。		B	B	教育環境の充実を図る。多くの意見・要望を取り入れ、中長期的計画を考えながら、限られた予算を有効に執行していく必要がある。
	予算の効率的執行	将来性・安全性を考慮し、教育環境の整備に努める。		B		
		最小の経費で最大の効果が得られるよう努める。		B		
	授業料免除制度等の活用促進	授業料免除制度や奨学金制度について周知を図るとともに、必要者の早期把握に努める。		A		
2 年次	基本的生活習慣の確立	挨拶と身だしなみを徹底させるために、生徒指導部と連携して、登校時や授業前などに積極的な声かけを行う。	⑤⑥	B	B	3年間で卒業する生徒の進路実現に向けて、基礎学力の充実に努めるとともに、進路希望の実現のため、進路指導部と連携していく必要がある。4年間で卒業する生徒に対しても進路意識が高まるように個に応じた指導を継続していく必要がある。
		修学旅行において円滑な団体行動がとれるように、集会や日々の生活の中で時間やルールを守る意識を高める。	⑤⑥	B		
		清掃の指導を徹底し、より良い環境づくりに努める。	⑤⑥	B		
	豊かな心の育成と個に応じた対応	ボランティア活動や奉仕活動、体験活動などの機会を多く設ける共に、継続的に活動できるようにする。	⑧⑨	A		
		面談や面接を積極的に実施し、生徒理解に努めるとともに、関係職員の連携を強化し、個に応じたきめ細やかな対応を心がける。	⑤⑯	A		
	進路意識の向上と基礎学力の充実	進路指導部と連携し、社会性や職業観を養うために、インターンシップ・進路別見学会・進路ガイダンスを行う。	⑩⑫	B		
		基礎学力向上のために、ドリル学習および基礎学力テストを実施する。	④⑫	B		
		教科と連携しながら興味ある資格取得ができるように支援する。	⑫	B		

1年次	基本的な生活習慣の確立	生徒指導部と連携し、身だしなみに注意してその場その場に臨めるよう、様々な場面で注意を促す。	⑤⑥	B	B 担任、カウンセリングコーディネーター、保健室、図書室、生徒指導部と連携を図りながら、生徒一人ひとりの状況把握と対応・指導に当たる必要がある(継続)。意思の疎通を図るために打ち合わせ時間が確保できる配慮を要請する必要がある。進路指導、学習指導、ルールやマナーの遵守、部活動への取り組みなどについて、年次通信等の保護者向けの情報発信を充実させる必要がある。生徒にとって充実感や達成感のある学校生活を実現するために、より分かりやすい授業・達成感のある授業のための指導法・教材精選・オリジナル副教材の研究を推奨するとともに、現行の生徒指導の充実、部活動顧問の養成を考える必要がある。
		挨拶の習慣が身につくように、授業時や集会はもとより、教室を離れた場を含めて挨拶できるよう指導する。	⑤⑥	B	
		教室の整備、清掃の指導を徹底し、より良い環境づくりに努める。	⑤⑥	B	
	豊かな心の育成と個に応じた対応	ボランティア活動や奉仕活動など、体験活動の機会を多く設ける。	⑧⑨	B	
		生徒の実態を把握し、個に応じた対応ができるように、面談や面接の機会を利用し、生徒理解に努める。	⑤⑬	A	
	進路意識の向上	職業観を育て、学業に対する意識が高まるように、系統的な進路ガイダンスを実施する。	⑩⑫	B	

※ 評価基準 A：達成できた， B：ほぼ達成できた， C：あまり達成されていない， D：達成されていない